

平成27年3月5日 / セントラルホテル鴨島

お金よりあなたがいいと言わせた男

～青年会議所運動を通して得た「気づき」～

講師 株式会社南海

代表取締役社長 木藤 誠治 氏



主催：公益社団法人日本青年会議所
徳島ブロック協議会

始めに

私はJC（日本青年会議所）で活動した中で、入会後の5年間は嫌で嫌で仕方ありませんでした。最後は好きになったかと言えそうですがありませんが、かけがえのない15年間だったと思います。

私が当初JCが面白くないと思っていたのは、JCの理念である「明るい豊かな社会を築こう」に対して、自分の理念や利益がどうしてもリンクしなかったからです。JCで何をすることが明確な人でも、入会してすぐに「これだ！」「という気持ちにはならなかったと思います。

失敗からの成長

自分がJCを通して得た「気づき」は「失敗からの成長」でした。失敗を通して「何がしたいのか」ということを明確にしてくれるのがJCだと思うようになりました。様々な人と関わりを持



っていく中で、「こんなことをしたい」と思った時に、自分一人では何もできないし、第三者に頼んでも言ったことをそのまましてくれんのはありません。失敗からの経験で学んだことですが、自分が変わることによって相手を变えていくという手法を見い出しました。

JCを嫌がっていた当初は、青年会議所メンバーや妻に対しても「自分のことを分かってくれたい」という気持ちで接してしましました。後ろを振り返ると誰もついてきていませんが「自分は一生懸命頑張っているのに何故」という気持ちでした。このように孤独な気持ちになった時、客観的に自分を見て「今、あなたは周りが見えていない状態だということを感じさせてくれていますよ」と思うようにしています。自分のことを分かってくれたいと思う気持ちだけで行動や発言をしても、分かってくれる人は限りなく少ないと思います。特に、あまりにも自分のスキルが高すぎる人は、自分のマナー・ジメメントは

できても人を使うことは苦手です。

私が妻に会社の嫌なことを訴えたとき、話は聞いてはくれますが、何かしたいと思った時に否定的になり、いがみあいになります。そこで、徐々に妻のことを理解しようと努めました。仕事やJCで忙しい時でも、家で皿を洗ったり食事を作ったりしました。



私がJCのブロック会長だった時に、双子が生まれましたが、妻の自分だけの時間を1時間でも2時間でも作ってあげられるよう頑張りました。（タイトルはここから来ています）

JCは、横柄だった自分が、失敗をすることで「このままでは何をやってもうまくいかない」という気づきを与えてくれました。そこで変わっていく中で、相手のことを考えるようになる、相手も自分のことを分かってくれるようになりました。今では、「まず自分から」気持ちで仕事をしています。

どの様に生きるか

今JCがつまらないと思う人は、それを否定しなくていいと思います。JCに入らなくてもJCの中で醸成されるスキル以上のものを持っている人はいると思います。それは「素直」「前向き」「勉強熱心」ということです。JCには「奉仕」「友情」「修練」という三信条がありますが、個人的には先に挙げた3つを持って何かに真剣に取り組みばいいと思います。そして、多くの人を幸せにし、尚且つ地域の貢献になつていくなら、JC活動をした方がいいと思います。

ただ、「これからどのように生きていくのか」が明確な人は、青年会議所という組織を使って学べることは多々だと思います。私の場合、「これからどのように生きていくか」はまだこれと決まったものではありません。このままではいけないので、自分の人としての未熟な部分を成長させていこうと思います。自分の悪いところは自分で分かります。

謙虚さが無い、横柄、自分のことしか考えないなどの悪いところを考えると、これでは人が付いてきません。

新入会員から見て、JCという組織の全員が素晴らしいと思えるかと言うと、そうではないと思います。しかし、その中で注目になる人が一人、三人いればそれでいいと思います。一人に出会っても変わらない人がいれば、たった一人に会うだけで変わる人もいます。その一人に出会えばいいのです。

私は、JCに入会して1ヶ月後にブロックの委員長をすることになりました。面白くもないし、当時25歳だったので遊びたいしで、どうしても嫌で、ブロックの委員長をボイコットして、そのままめようと思いましたが、その時にブロックの副会長が、音信不通の私を見捨てずにずっと電話をくれました。副会長からすれば迷惑な話だったと思いますが、



私を責めるようなことは言わず「出てきなよ」「辞めたらいかん」という言葉だけでした。副会長に申し訳ないとの思いから、最後の一回は出席しました。「辞めたらいかん」と無条件の愛を与えられたことで、辞めにくくなり、それからずっと続いてきました。あの時に副会長がいなければ、私のかけがえのない15年間も今の私もなかったと思います。

自分の子どもには厳しいことを行ったり優しいことをしたりもしますが、基本スタンスは無条件の愛です。親子だからできることを副会長は他人に行い、そしてそれからの私は、失敗から成長する経験を蓄積していききました。



自分を変える

社長は会社のことを考えて、利益をどうやって出して、将来のことをどうするか考えますが、その気持ちは社長が一番強いのが当たり前です。そして、社長が社員にその

気持ちを分かってくれたいと思います。私は、分かってくれなくても仕方がないと考えて、無条件の愛を皆に与える努力をしています。そうすると、以前は裸の王様だった状況が最近少しずつ変わってきました。色々な経験をして、ここに至るまでに15年かかりました。

私は、会社の販売部門で一営業員としても働いていますが、その中で、誰も追いつけない数字を突き抜けて出し続け、その上でみんなのフォローをしているので大変ですが、社長をしていて今が一番楽しいです。いくら儲かったかではなくて、今まで足りなかったところで、様々な人を巻き込んで、自分が出している以上の力を発揮して、社員が安心安全で幸せでいられる、お客様に様々なことを提供できるというサイクルを自分が中心になって作っていくというのを直に行っています。



す。もし自分がJCに属さなければ会社は潰れていたと思います。JCで得た気づきは、自分がどう頑張ったかを残したかではなく、失敗をして、その失敗に対して関わったことからの学びです。

過去と現在と未来

「JCとは何か」ということは人それぞれ違って構いません。過去の様々な出来事や経験などのデータベースがあつて今の自分が作られます。同じ物事でもそれをどう受け止めるかは人それぞれです。この感性は自分の過去の積み重ねです。過去というものは、例えば何かに成功して喜ぶのはいいのですが、それにすぎるとダメになります。

過去に失敗したことや思い悩んだことをどれだけ丁寧に扱えるかということが、今の自分を作ります。そして今の自分しか未来は作っていきません。自分でやりたいことが決まっているなら、遅かれ早かれできるよう

になります。早くできる方が得です。

最後に

私がJCにいた時も講演を聞きましたが、最初は自分の価値観と講師の話す価値観が同じだろうかとこの次元の低い考えで話を聞いていました。しかし、最後の方では価値観が合っているかどうかと言う評論的なことではなく、「なんであの講師はそう思うのか」「あの講師にそう思わせたい経験は何だったのか、その経験は自分もしたことがあるのか」と考えるようになりました。経験がなければ言っていることは分からないですが、それでも成長したいので、そういった経験を学びたいという気持ちで講演を聞くようになりました。

自分を愛せない人は人を幸せにすることができません。まず自分が幸せになれるように、自己研鑽をし、自分の夢を最後まで叶え続け回日も幸せにしてほしいと思います。

(文責・編集部)